

当社事業（濃縮・埋設）に関する現状報告 【長計フォローアップの観点から】

平成15年11月7日
日本原燃株式会社

濃縮事業について

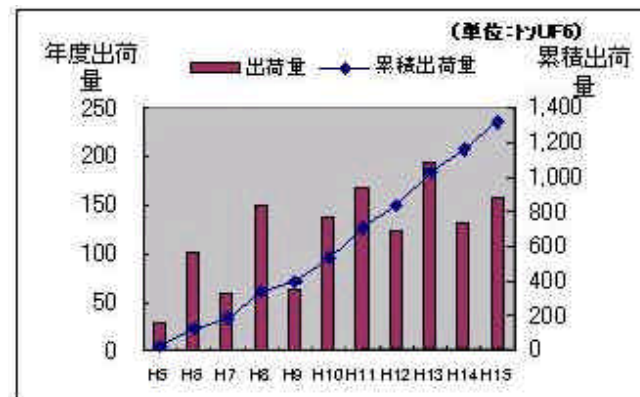
長計記載事項

- より経済性の高い遠心分離機を開発・導入し、生産能力を1,500トンSWU/年規模まで着実に増強しつつ、安定したプラント運転の維持および経済性の向上に全力を傾注することが望まれる
- 遠心分離機の研究開発については、JNCによるこれまでの開発成果や知見、人的資源を着実に集約して有効活用するとともに、国際市場の動向を踏まえて、他国との協力をも視野に入れ、主体的に推進することが望まれる。

現状

- 1,050トンSWU/年規模で操業中
(うち、450トンSWU / 年は生産停止中)
- 更に性能を高めた新型遠心機を導入すべく開発を実施中
 - 長期間の運転を可能とする、材料等の技術開発
 - 国際競争力向上を目指して、遠心分離機の高性能化に向けた技術開発

これまでの製品ウランの出荷状況
(平成15年9月末現在)

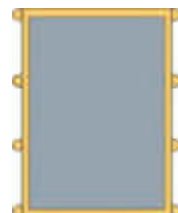


埋設事業について



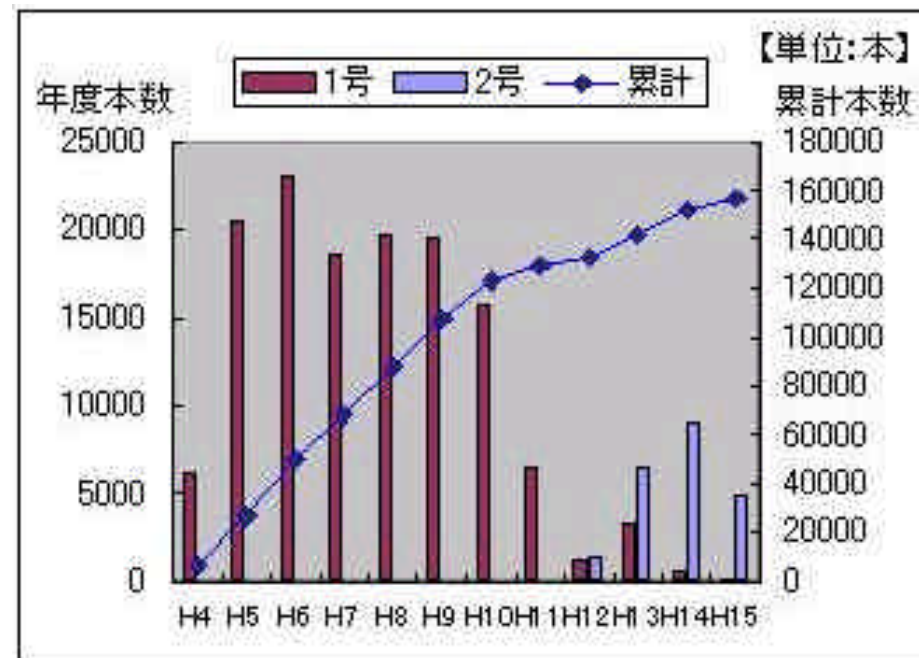
【1号埋設施設に埋設する廃棄体】

原子力発電所の運転に伴い発生した濃縮廃液、使用済樹脂、焼却灰等をセメント、アスファルト、プラスチックを用いてドラム缶に固型化したもの



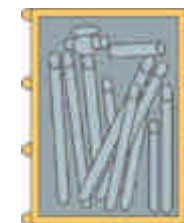
1号廃棄体断面

これまでの低レベル放射性廃棄物の受入れ状況
(平成15年9月末現在)



【2号埋設施設に埋設する廃棄体】

原子力発電所の運転に伴い発生した金属類、プラスチック、保温材、フィルター類などの固体状廃液物を分別し、必要に応じて切断・圧縮・溶融処理等を行いドラム缶に収納した後、セメント系充てん材 (モルタル) で一体となるように固型化したもの。



2号廃棄体断面

放射能レベルの比較的高い 低レベル放射性廃棄物の埋設について

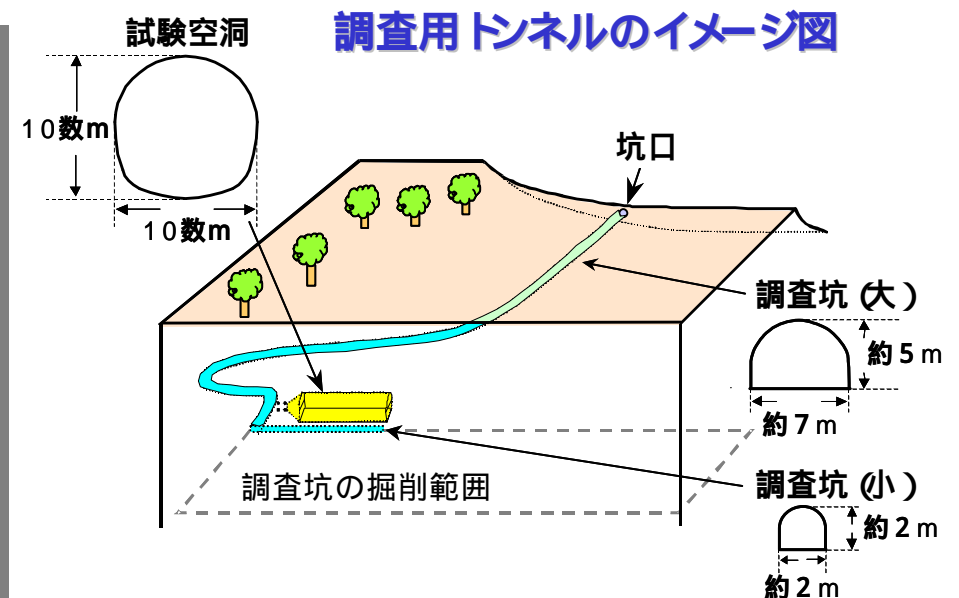
長計記載事項

- 処分の実現を図るには、処分技術が国民に信頼されるものであることが必要。
そのためには、安全確保の考え方や処分に必要とされる技術について、わかりやすく国民に向けて発信していくことが重要。
- 事業者に対する国民の信頼を確立し、「安心感」を確立していくことが極めて重要。
そのためには、事業のすべての段階を通じて情報公開に徹底することが不可欠。

現状

平成14年11月より本格調査を実施しており、調査坑掘削工事、ボーリング調査等、調査期間は約3年程度を予定している。

ホームページ等をとおして、各調査段階における最新情報を公開している。





前回報告 (平成 15 年 8 月 7 日)以降の 再処理事業に関する状況報告



プール水漏えいに係わる対応について

不適切な溶接箇所調査結果・補修計画

プール水漏えいに係る調査・点検の結果、不適切な溶接箇所は285箇所、漏えい・貫通欠陥5箇所、栓溶接1箇所を加え、合計291箇所を確認。

9月19日より、当該箇所すべてのステンレス製の内張り板を張り替える補修工事を開始。年内目途に作業を終了予定。

品質保証体制の点検

今回の不適切な溶接や本年3月の硝酸漏えい等を考慮し、設計・建設時における品質保証が不十分であったことを反省し、9月22日より再処理工場全体の品質保証体制についてあらためて点検・評価している。

点検作業は、国の検討会の指導、助言を頂きつつ、社長をトップとする社内体制のもと、各電力会社、COGEMA社の技術者からの支援、当社の第三者委員会のアドバイス、評価も受け、実施しているところ。

再処理工場の工事計画の変更について

今般のプール水漏えい等に係る補修、並びにウラン試験を安全かつ円滑に実施するため品質保証体制の点検を実施しており、これらを年内終了を目途に取り組むこととし、次のとおり工程を見直した。

現行工程		変更工程	
竣 工	:平成 17年 7月	竣 工	:平成 18年 7月
ウラン試験	:平成 15年 10月	ウラン試験	:平成 16年 1月
アクティブ試験	:平成 16年 7月	アクティブ試験	:平成 17年 2月

補修工事、品質保証体制の点検などの作業については、工程優先ではなく施設の健全性確保を最優先とし、謙虚にかつ真摯に取り組むとともに、その進展状況や結果を適宜公表し、透明性の確保にも努める所存。